2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

松永中学校区	校番 33	福山市立柳津小学校
最終更新日		2025年(令和7年)4月3日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・評価はすべての学校で「十分満足できる」「おおむね満足できる」と評価された。 ・評価指標は短期では評価しにくい。評価項目の検討が必要。 ・学校情報の外部への発信は実態がよくわからず評価しにくい。	児童生徒の現状 ・全国学力調査では、全国平均を下回っており、低学力の子どもが多く、学力定着に課題がある。 ・同調査の「意識調査」ではほとんどの項目で全国平均を上回っている。 ・挨拶ができる子どもが増えてきた。校区で取組んだ成果が見えてきた。	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】 ・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り開く子ども ・自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども ・「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。 ・「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。 ・「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。
--	---	--	---

III 自校

ミッション 地域や保護者の信頼に応え、地域住民から愛される学校を地域と共に創造する	育成する力 資質・能力	【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】
学校教育目標 進んで学び 豊かな心でたくましく生きる子どもの育成	めざす子ども像	1 自ら考え学ぶ意欲的な子(確かな学力) 2 主体的に活動し、自ら成長する子(自己肯定感) 3 豊かな心を持ち、地域から応援される子(豊かな心)
現状 (児童生徒) ○児童が、自分たちで対話を通してよりよい学級をつくろうとしたり、学校生活をよりよくしようとする意識を持つ児童が増えた。 ●今後は、児童が自らの意思決定をしたり、集団としての合意形成をしたりするなど対話をもとにしたよりよい集団づくりの取組を進める必要がある。 ●家庭学習の習慣が十分に身につけていない。(家庭学習の時間も短い) (授業) ○実態把握をもとに子どもの躓きを予想した教材研究、授業改善を行うことで基礎学力の定着を図った。 ○学びの成果物やふりかえり、相手意識を持った書く活動により、書く力がついてきた。 ○学習端末のICT 機器の有効活用(調べる・自分の考えをまとめる・発表する・友達と意見交換する)を学年に応じて進めた。 ●基礎学力の定着が十分でない(下学年の学び直しが必要)児童がいる。手厚い個別の支援が必要である。 ●語彙力が十分にしておらず、文章を理解できていない児童がいる。	研究 テーマ 自分の考えを持ち、共に学び合う児童の育成 ～主体的・協働的な学びができる授業づくりの工夫～ 主内容等 国語・特別活動	
	めざす授業の姿	【国語】対話をもとにした学び合いのある授業づくり 1 一つ一つの言葉にこだわって理解を深め、語彙力を向上させる。 2 自分なりの読む視点をもって全体と部分を行き来しながら読み、対話を重ねることで、内容を深く理解させ読み取る力を向上させる。 3 相手意識を持ち、条件に合わせて書いたり情報を活用したりして書く力を育てる。 【特別活動】対話をもとにしたよりよい集団づくり 1 学級会を通して多様な考えや価値観を共有し認め合えるようにする。 2 話し合ったことをもとに自治的活動を行う。 3 活動を振り返り、新たな議題の提案や課題解決に向けての取り組みを考え行動できるようにする。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力を入 れ評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況	力を入 れ評価	達成 評価	総合 評価
4	主体的な学びの授業づくりを進め、学ぶ意欲と学力向上を図る	★	見直し	○体的・協働的な学びができる授業づくりを通して学力の定着を図る。 (単元末テスト思・判・表の項目で到達率80%以上。単元末テスト思・判・表の項目で到達率40%未満の児童を○)	○児童のつまずきの分析、授業づくりポートフォリオをの作成を通して授業改善を図る。 ○帯タイムや放課後の学力補充、家庭学習で漢字、計算の力をつける。	○取り組みの実践交流を8月と12月に行う。 ○帯タイムや放課後学力補充の確実実施。家庭学習の習慣化。								
4	児童の自己肯定感を高める。	★	継続	○他者とかかわりあいながら、学校及び学級をよりよくする活動を行う。 「学校に行くのは楽しいと思う児童」90%以上	○異学年の活動(児童会活動、委員会活動、クラブ活動)学級活動など自治的な集団活動を設定する。 ○定期的に、児童の情報共有の場を設定し、連続欠席、遅刻の未然防止、初期対応を組織的に行う。 ○生活習慣の確立とスマホ・ゲームの使用時間を減らす取り組みを行う。	○学校や学級の生活をよりよくするための活動を行う。 (児童アンケート肯定的回答80%以上) ○校内委員会や終礼で児童の情報共有の場を月に2回以上設定する。 ○ゲーム(スマホ・タブレットを含む)の使用時間を減らすことができる。 (児童アンケート肯定的回答70%以上)								
4	教職員の資質・能力の向上を図る。		継続	○教職員が元気で児童に向き合える職場環境づくりを行う。 「仕事にやりがいを感じている教職員」100%	○放課後は職員室で事務作業を行い対話することで情報交流と共有化を図る。 ○地域・保護者への積極的な情報発信を行い、地域・保護者とつながる。	○授業づくりなどで失敗を恐れずに挑戦することができる教職員100%。 ○学校だよりを毎月発行し、HPの更新を月に2回以上する。								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。